

「農漁共存」諫早湾海上デモ



「即時開門」求め漁船120隻300人

【朝日・5月19日】国営諫早湾干拓事業（長崎県）をめぐる、潮受け堤防排水門の開門調査を求める長崎、佐賀など有明海沿岸4県の漁民が18日、漁船120隻を連ねて海上デモをした。船と船との間に広げた横断幕には「即時開門」と「農漁共存」の文字。不漁への焦りと「開門反対の農民と争いたくない」との願い。二つの思いの間に漁民たちは揺れる。

「有明海漁民は早期開門を望んでいるぞ」「農業と漁業の両立のため、開門調査を実施しろ」「干拓地と背後地の農業用水を確保しろ」。18日正午すぎ、排水門前の有明海で佐賀市のノリ漁師、川崎賢朗さん（49）の叫び声が拡声機を通じて響き渡った。

海上デモは、開門を求める訴訟の原告でもある漁民らが中心になって実施を決めた。赤松広隆農林水産相は参院選前にも開門調査の実施の意思表明をするとみられ、「今を逃すな」とこの日を選んだ。9メートル四方のブルーシート8枚をつないだ横断幕は、アピールの目玉だ。

「農漁共存」の言葉は新たに加えた。開門派の漁民仲間が集まった際、「漁業者対農業者の構図が独り歩きしているのでは」と懸念する声相次いだからという。

干拓地や周辺で農業を営む人たちからすれば、開門をすれば、潮受け堤防の内側にある淡水の調整池に海水が入って農業用水に使えなくなる。塩害や水害も生じかねない。断固反対の姿勢だ。18日午前

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

一刻も早く



農漁共存に向けた開門を訴える漁業者

には、諫早湾沿いの長崎県雲仙市の市議会が「市民の不安をあおる」と早期開門に反対する意見書を採択した。川崎さんから原告団・弁護団はこれまで、開門調査が実現する際には、調整池に代わる水源を確保し、水門を徐々に開けるといった影響回避策を提言してきた。それだけに、4月末に与党と農水省の検討委員会が「開門が適当」と結論を出しながら、具体策を挙げなかった点が不満だ。

「農業者も納得する材料を国が示さなければ、開門は遠のく」と川崎さん。「農漁共存」の横断幕は、国へのメッセージでもあると言う。

ここ数年、有明海では毎夏赤潮が大発生し、アサリなどが大量死している。佐賀県太良町のタイラギ漁師、平方宣清さん（57）は「そろそろ赤潮発生の季節。一刻も早く開けないと来季の漁はダメになるかもしれない」と焦りを募らせる。「農業との両立は大事。即時開門も譲れない。両方とも私たちの切実な思いなんです」